



平成 29 年 1 月 31 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 U M N フ ァ ー マ
代 表 者 名 代 表 取 締 役 会 長 兼 社 長 平 野 達 義
(コード番号：4585 東証マザーズ)
問 合 せ 先 取 締 役 財 務 部 長 橋 本 裕 之
電 話 0 4 5 - 5 9 5 - 9 8 4 0

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の事業動向等を踏まえ、「特別損失の計上に関するお知らせ」の通り、連結及び単体にて特別損失を計上することとなりました。従いまして、平成 28 年 10 月 18 日に公表した平成 28 年 12 月期（平成 28 年 1 月 1 日～平成 28 年 12 月 31 日）の連結及び個別の通期業績予想を、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

1. 平成 28 年 12 月期 通期連結業績予想数値の修正（平成 28 年 1 月 1 日～平成 28 年 12 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	84	△3,391	△3,699	△3,451	△342 35
今回修正予想 (B)	71	△3,564	△3,858	△13,766	△1,327 04
増減額 (B-A)	△13	△173	△159	△10,315	—
増減率 (%)	△15.5%	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 27 年 12 月期)	202	△3,207	△3,390	△3,390	△354 16

2. 平成 28 年 12 月期 通期個別業績予想数値の修正（平成 28 年 1 月 1 日～平成 28 年 12 月 31 日）

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	66	△475	△477	△47 32
今回修正予想 (B)	53	△481	△7,972	△768 52
増減額 (B-A)	△13	△6	△7,495	—
増減率 (%)	△20.0%	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 27 年 12 月期)	190	△614	△617	△64 48

3. 業績予想の修正理由

(1) 連結業績予想

平成 28 年 12 月期の売上高につきまして、当社が第一三共株式会社と共同研究を実施している UMN-2002（ノロウイルス VLP ワクチン、以下、「UMN-2002」といいます。）に関連する売上に関し、契約において規定され

る当社に対する研究協力金を研究開発スケジュールに従い月割り計上していましたが、研究開発進捗の遅れから、一部売上を取り消すこととしたため、13百万円の減収見込みとなりました。

費用面におきましては、UMN-0502（季節性インフルエンザ HA ワクチン、以下、「UMN-0502」といいます。）の2017-18年シーズン向け国内商用生産に関連し、当該製造原価に対応した仕掛品として計上していた減価償却費等を費用化したため、試験研究費が増加することとなりました。

更に、平成29年1月10日に開示した「アステラス製薬株式会社によるASP7374（当社開発コード：UMN-0502）及びASP7373（当社開発コード：UMN-0501）に係る共同事業契約解約権行使のお知らせ」に記載の通り、アステラス製薬株式会社より、細胞培養インフルエンザワクチン共同事業契約の解約権を行使する旨の申し入れを受けました。既に、アステラス製薬株式会社にて、独立行政法人医薬品医療機器総合機構に対するUMN-0502製造販売承認申請の取り下げがなされ、現在、UMN-0502及びUMN-0501両剤に係る共同事業契約に関する解除手続きが行われております。当社の収益基盤の重要な柱の一つでありました国内インフルエンザワクチン供給事業が困難となったことから、10,156百万円の事業整理損を特別損失に計上することといたしました。内訳は、UNIGEN 岐阜工場棚卸資産評価損1,717百万円、UNIGEN 岐阜工場有形固定資産減損損失8,373百万円、その他65百万円であります。

結果、当期純損失が前回予想と比べ拡大する見込みであります。なお、当該特別損失を計上することにより、平成28年12月期連結純資産額は△106億円程度と、大幅な債務超過となる見込みであります。

（2）個別業績予想

平成28年12月期の売上高につきまして、当社が第一三共株式会社と共同研究を実施しているUMN-2002に関連する売上に関し、契約において規定される当社に対する研究協力金を研究開発スケジュールに従い月割り計上していましたが、研究開発進捗の遅れから、一部売上を取り消すこととしたため、13百万円の減収見込みとなりました。

なお、連結業績予想と同様に、当社の収益基盤の重要な柱の一つでありました国内インフルエンザワクチン供給事業が困難となったことから、7,489百万円の事業整理損を特別損失に計上することといたしました。内訳は、当社からUNIGENへの貸付金債権の回収可能性が低くなったことによる関係会社貸付金貸倒損失5,647百万円、当社が保有するUNIGEN普通株式に関し、UNIGENの財務状況悪化に伴う関係会社株式評価損1,750百万円、その他92百万円であります。なお、UNIGENへの貸付金債権、及び当社が保有するUNIGEN普通株式に関しては、全額を損失または評価損として計上しております。

結果、当期純損失が前回予想と比べ拡大する見込みであります。なお、当社単体における平成28年12月期純資産額は、当該特別損失を計上するものの、プラスを維持し5.8億円程度となる見込みであります。

（注）上記業績予想数値につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて作成しており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

以上